

## I 1年生 「良い習慣作りをしよう」

- 1 1年生にとって、2学期はどのような学期でしたか。1学期を経験し、少しは学校生活に慣れてきたと思いますが、9月初旬に行われた運動会では、酷暑の中の練習に本当によく耐えたと思います。運動会明けも欠席する生徒は非常に少なく感心しました。また、1年生は図書館での読書貸し出し冊数が1000冊（11月末時点）を超えています。すばらしいことです。勉強面においても、第2回学力推移調査の結果は、国数英総合において学力到達ゾーン「A3」という過去にない好成绩でした。

しかしながら、全てがうまくいくということはなかったと思います。大きくはなくても、小さなトラブルや悩みは、誰にでもあったはずです。皆さんは、そのようなトラブルや悩みを、友達や先生、保護者の力を借りながら乗り越えてきました。乗り越える体力となる、基本的な生活習慣を着実に身に付けてきたのだと思います。木村和夫さんの『習慣』という詩があります。

勉強をサボるという習慣	勉強を真剣にやるという習慣
本を読まないという習慣	本を読むという習慣
字を乱雑に書くという習慣	字を丁寧に書くという習慣
小さな声でぼそぼそと言う習慣	はっきりした声でしっかり言う習慣
毎日毎日が習慣づくり	
挨拶をしないという習慣	挨拶をするという習慣
他の人の言葉に耳を傾けないという習慣	耳を傾けるという習慣
人の悪い所を見つけようという習慣	人の良い所を見つけようとする習慣
自分のことを優先しようとする習慣	他の人のことを優先しようとする習慣
何気ない一回一回のこと	何気ない一日一日の積み重ね
その中で 今のあなたは作られてきたし	これからもつくられていくのです
どんな習慣を自分のものにしていくのか	
何気ない一回一回のこと	何気ない一日一日の積み重ね
その中にこそ あなたがいるのです	

習慣とは、「学習によって後天的に獲得され、反復によって固定化された個人の行動様式」と辞書に記載されています。どのような習慣であっても最初から身に付けている人はいません。2学期の君たちの一番の成果は、この習慣作りの賜物（たまもの）だと思います。これからも良い習慣を多く身に付けるための努力を継続してください。

- 2 仲の良い友達はできましたか。中学校に行っている小学校のときの同級生は、これから中学時代と高校時代の友達を作ることができます。でも、皆さんは、中学、高校に当たる6年間を同じ友達と過ごします。単純に考えると、皆さんの友達の数は、中学校に行っている人たちの半分になります。ならば、6年間をかけて心の底から親友と言える友達をつくりましょう。数の多さではありません、関わりの深さを追求しましょう。

夢を語り合える友 夢を認めてくれる友 夢を応援してくれる友  
夢を叶えるための努力を続けている友  
自分を叱ってくれ、人生の師となる友

## II 2年生 「日々感謝」

1 校長室の清掃は、2年生の女子生徒がやってくれています。前後期で清掃場所が変わるので、合計8人の生徒と一緒に清掃をしました。彼女たちと接していると、心が軽くなり、がんばるためのエネルギーをもらっている感じがしてきます。私は、子供の頃から煮え切らない性格で、いつまでもうじうじ考えたり、悩んだりする方です。どうにかしたいと思い、直そうと努めてきましたが、改善しませんでした。自分で直すことはできませんでしたが、彼女たちのさわやかな笑顔や明るく元気な行動は、なぜか私の重たい心を軽くしてくれます。多分、彼女たちにも悩みはあるのだけれど、意識はしてなくても他人の心を明るくする才能を持っているのだと思います。8人が特別な存在ではないでしょうから、多くの2年生が8人と同じような才能を持ち、家庭的な雰囲気の中で学校生活を送っているのだと想像します。学習成績が上がっているのも、うなずけます。

2 でも、一部には、私と同じように自力で悩みを解決できずに、立ち止まってしまう生徒もいるでしょう。私の場合は、ある程度悩んだり迷ったりすると集中力が切れて、考えることをやめてしまうので良いのですが、皆さんも悩みや迷いの底なし沼に引きずり込まれないようにしてください。どこかで自分に妥協したり、開き直ったりするを経験してください。進路等で迷っている人がいたら、次の新聞記事を参考にしてください。

「迷うことは心の勲章」

毎日新聞統合デジタル取材センター 小国綾子

教育実習のとき、進路担当教員から高校時代、どんな夢を抱き大学を選んだか、生徒への原稿を書いてほしいとの依頼があった。正直に書いた。入学後、学ぶ目標を見失い、1年休学し、アジアを放浪したこと。専攻を変更し、なんとか大学に復学したこと。

でも、先生は私の原稿だけを没にした。「君のは、高校生を迷わせる」今ならわかる。進路指導の教員は実習生に、目標を持った受験勉強の体験談を書いてほしかったのだ。あの時私は、「学校って迷っちゃいけない場所なんだ。ならば私はここで働けない。」と思った。

新聞記者になって、実習時の原稿に書いたようなメッセージをつづったら、多くの中高生から感想文をもらった。「迷ってもいい、という言葉がうれしかった」「行き当たりばったりで今の職業について。という大人の話は初めて聞いた」「目標を早く決めて、勉強しないと間に合わない」とあせっていた。そうじゃない人生もあるんですね。」世の中、最短距離で答えにたどり着いた人よりも「そうじゃない人生」の方がずっと多いのに。もしも、もう一度、教育実習で教壇に立てるなら、教室の黒板に、谷川俊太郎さんの詩「出口」を書きたい。

自分で作った迷路に迷って 出口を探してうろうろしてる  
上を見ればまだお天道様がいるのに 下を掘ればまだ水も湧くのに  
前ばかり見て歩いていくから  
どっちに向かっているのか いつかそれさえ分からなくなって  
心は迷子  
いっそ出口はないと得心して 他でもないここにでぐちならぬ  
新しい入り口をつくってはどうか

ちゃんと迷うことは、自分の手で「新しい入り口」をひらくこと。それが喩え次の迷路の入り口だっただけかまわない。大人になった今も、迷うたびに自分に言い聞かせている。

「一番大切なのは変わることを怖がらないこと。道を選ぶ勇気さえあれば、今はどんな道を選んででも大丈夫。迷うのは自分の頭で考えている証拠。

勲章みたいなものだよ」

毎日新聞(東京夕刊) 2018年6月5日

### Ⅲ 3年生 「基礎基本の大切さ」

1 3年生の皆さん、アチーブメントテストのための勉強はしていますか。伝えているとおり、今回からこのテストの位置づけを変えて、大学入学共通テストの様式（記述、文章量、資料の読みとり）を導入したり、自己の学力を的確に把握できる内容（学力推移と同レベル）としたりして、「与えられる勉強」から「自主的な勉強」へ舵を切ることを支援します。好成績を取るに越したことはないのですが、しっかり勉強して取り組んでくれればそれでかまいません。今回のテストの最大の目標は、前期課程の範囲の中で、自分が理解できていない分野や苦手教科がどの単元から分からなくなっているのかなどを把握することです。勉強しなければ、テストを受けても何の意味もないことを理解しておいてください。

2 さて、何事においても基本が大切であることは、皆さんも十分に理解していると思います。学校の勉強、スポーツ、稽古事、いずれにしても基礎基本を疎かにすると向上しません。「基本無くして、何事も成就しない」ということを、二人の言葉を通して考えてみます。

まずは、元プロ野球選手の江藤省三さんの言葉です。彼は、プロで11年間プレーしましたが、それほどすごい成績を残したわけではありません。現役引退後はコーチとして選手の指導に当たりました。平成11年、母校の慶應義塾大学の監督に就任すると、東京六大学春季リーグ戦では2年連続優勝の栄光へと導きます。「どうやって大学生を強くしたのか」との記者の問いに、江藤さんはどのように答えたと思いますか。その記者は、アマである学生にプロの技術を教え込んで優勝したという回答を期待していたのかもしれませんが。しかし、彼の返答は、「素振りの数を増やした」であった。さらに、「アマとプロの違いは、『素振りの量』『基本を徹底していること』」だと付け加えました。

3 二人目は、坂東玉三郎さんです。歌舞伎界を背負って立つ女形として、また、歌舞伎の枠を超えて、世界の芸術家にまで大きな影響を与えている人物です。彼がこの世界に入ったのは、6歳の時である。それまでの気ままな幼年時代から一転して、厳しい稽古を積むこととなります。修行の厳しさは、ある程度覚悟していましたが、常に苦痛を伴ったそうです。その苦痛とは、ただただ、稽古の積み重ね、いわゆる反復する理由が分からないことから来るものでした。どうして幾度も同じことを繰り返さなければならないのか納得がいかない。自由が懐かしく、切ない。形から逃れたいという想いが延々と続きました。

稽古に集中できないでいる彼に、養父である守田勘弥（かんや）は、事あるごとに次の言葉を言って聞かせました。「型破りってえのは、型を持っている人間の言うことなんだ。形も何もない奴らがやれば、いいかい、それは形なしって言うんだよ」と。「形（基本）を身に付けてこそ、型破り（個性）が生まれる」ということが理解できるようになるまで、何十年もの歳月が必要であったと、坂東さんは語っています。

4 一流と呼ばれる人は、例外なく徹底的に基礎基本を身に付ける努力をしています。努力には即効性がないから継続することが難しいとともに、単純なことをひたすら反復しなければならないから苦悩が伴います。素晴らしい素質や才能を持っていたとしても、「どうせできない」と思った瞬間に実現の可能性はゼロとなります。結果に差を生じさせるものは、素質や才能ではなく、基礎基本を習得するまでの積み重ね、つまり単調に続く重圧、試練を乗り越えていく意欲と情熱なのです。君達は、その意欲と情熱を備えた存在であると確信しています。